

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

(和文) 環境インフラストラクチャー：自然、テクノロジー、環境変動に関する比較研究

(英文) **Environmental Infrastructures: A Comparative Study on Nature, Technology and Environmental Change**

2. 研究代表者氏名

森田敦郎

3. 研究期間

2013 年 04 月 - 2016 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

温暖化等のグローバルな環境変動が進む今日、われわれの自然についての知識は、気候モデル、環境指標、情報アーカイブといった科学技術にますます依存するようになっていく。本プロジェクトはこうした技術と組織の体系を、近年の科学技術論における大規模技術システムや情報ネットワーク (=インフラストラクチャー) についての議論を取り入れ、「環境インフラストラクチャー」として概念化することを試みてきた。これは、社会ないし人間集団が環境との関係を組織する一連のテクノロジーと組織の総体で、人々が彼らを取り巻く環境を「知り」、それに対して働きかけることを可能にする基盤となっている。本プロジェクトでは、この環境インフラストラクチャーに焦点を当て、グローバルな環境変動と地域社会の関係を科学技術の媒介的な役割を考慮に入れて捉えることを目的としている。

5. 本年度の研究実施状況

共同研究プロジェクトの2年目である本年は、5月と3月に開催した国際シンポジウムとワークショップを核として、国内・海外の共同研究者の研究発表を活発に行った。5月14日に開催したワークショップ (**Environmental Infrastructures: Joint-Workshop with the Indigenous Knowledge and Modern Science Project**) では、University of Copenhagen の Anders Blok、大阪大学の森田敦郎、京都大学の菅原和孝がそれぞれ研究発表を行った。また、森田敦郎と石井美保は、7月31日から8月3日にかけてエストニアのタリン大学で開催された **European Association of Social Anthropologists** 研究大会において、“Intimacies of Infrastructure” (Convenors: Penny Harvey (University of Manchester); Atsuro Morita (Osaka University)) と題したパネルで発表を行った。通常の研究会としては、10月18日に大阪大学の古川不可知がネパールのヒマラヤ登山とシェルパについて、また一橋大学の難波美芸がラオスの鉄道計画についてそれぞれ発表を行った。12月15日には基盤研究A「在来知と近代科学」プロジェクト (代表: 大村敬一・大阪大学) との合同研究会を開催

し、京都大学の中谷和人がデンマークにおけるアール・ブリュットと政治について発表を行った。2月14日には、国際ジャーナル Ethnos の特集 (“Infrastructure as Ontological Experiments”) の一部をなす、森田敦郎と石井美保の2論文の合評会を行った。3月6日と7日には、基盤研究A「在来知と近代科学」プロジェクト、ならびにトロント大学と共催の国際シンポジウム (Politics of Environmental Knowledge: Encounters between Indigeneity and Modernity) の開催をした。

8. 共同研究会に関連した公表実績

1. “Intimacies of Infrastructure” Convenors: Penny Harvey (University of Manchester); Atsuro Morita (Osaka University) European Association of Social Anthropologists
2. “Environment, Infrastructure, Life in the Anthropocene” Workshop at Concordia University, Montreal, Sep. 24-25, 2015.
3. “Infrastructure as Ontological Experiments” Special Issue of Ethnos (editors Casper B. Jensen and Atsuro Morita)
4. Infrastructure and Social Complexity: A Routledge Companion. Edited by Penny Harvey, Casper B. Jensen and Atsuro Morita.

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	女性数	総計	外国人	大学院生	若手研究者	女性数
所内	2	2				1					
学内(法人内)	1	1									
国立大学	5	5		3	1	1					
公立大学											
私立大学	4	4		1	1	1					
大学共同利用機関法人											
独立行政法人等 公的研究機関											
民間機関											
外国機関	4	4	3		1	2					
その他											
計	16	16	3	4	3	5	0	0	0	0	0

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	100
国際学術誌に掲載された論文数	50

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
Asian Anthropology 13(2)	1	Traces of Reflexive Imagination: Matriliney, Modern Law, and Spirit Worship in South India.	Ishii, Miho
HAU: Journal of Ethnographic Theory 4(3)	1	Ocean, travel, and equivocation: A response to Anne Salmond's "Tears of Rangī".	Morita, Atsuro
Science, Technology and Human Values 39(2)	1	The Ethnographic Machine: Experimenting with Context and Comparison In Strathernian Ethnography.	Morita, Atsuro

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す